

共に学び磨き進まん

日々向上 ~昨日より今日 今日より明日~

横中は
愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA

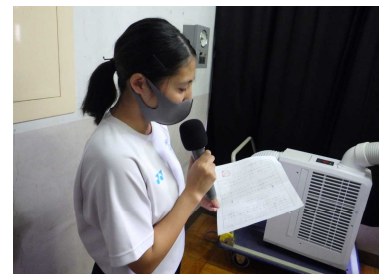
間もなく今年度の前半が終わろうとしています。通常時より1か月半ほど短い1学期でしたが、コロナ禍において、新しい生活様式への順応も取り入れながら、生徒たちは授業や部活動、委員会活動などに一生懸命取り組んでいる様子が感じられます。

特に、『あいさつ』は素晴らしいと思います。多くの生徒が、はっきりと聞こえる声であいさつをすることができ、中には、きちんと立ち止まってお辞儀をしてくれる生徒までおり、元気をもらっているような気にさえなります。その**長所をさらに磨いていってほしい**と思います。

9月には、様々な行事を行いましたのでご紹介します。ぜひ、ご家庭での話題に取り上げていただけますと幸いです。

「情報モラル教室」

スマホやタブレットなどの普及と所持の低年齢化を受け、全国的にも喫緊の課題となっている『情報モラル教育』。教育が端末の普及に追い付いていないのが現状だと感じています。



そうしたことを受け、9月11日の6校時に、学校のICT関連でもお世話になっている(株)スキットから講師の方を招き、「情報モラル教室」を実施しました。

コロナ禍の状況下ですので、TV放送によるものとなりましたが、通信機能のあるゲームや携帯・スマホなどが持つ、コミュニケーションツールとしての利便性や快適性の陰に隠れた危険性などについて、丁寧に説明をしていただきました。

今、特に心配されていることとして**「ネット依存(症)」**を挙げておられました。「依存症」というと、他にギャンブル依存症やアルコール依存症などがありますが、いずれも自分の意志だけではやめるのが困難な症状になる傾向があり、大変な病気です。**ネット依存(症)とは、「インターネットやゲームにのめり込み、自分でやめようと思ってもやめられない。ネットにつながっていないと不安になり、メールチェックなどを頻繁にしてしまう。食事の時やTVを観ながらも携帯・スマホを操作している。」**ような症状が現れることが多いようです。

その結果、**視力低下や睡眠不足、ストレートネックによる肩こりなどの健康悪化や、生活習慣の乱れによる昼夜逆転やネット以外への興味が薄くなるなど、日常生活にも支障をきたすケースも多く起きている**ようです。

また、もう一つ、中高生に多く起きている**「ネットトラブル」**についても話をしてくださいました。中でも、依然としてなくなるならないトラブルとして、**「他人への誹謗・中傷」「ネットいじめ」**を挙げていました。時として、人を死に追いやってしまうケースも現に起きています。**不用意なメールや書き込みが、「そんなつもりはなかったのに」では済まされない重大な事故の原因を作ってしまうことにもなりかねません。**

生徒たちは真剣にTV画面を見つめ、話に耳を傾けており、おそらく、自分自身の使い方と照らしながら視聴していたのだと思います。講話後、生徒会長の齋藤さんが「便利で楽しいものには危険が隠れていることや、ネット依存の怖さがよく分かりました。今は多くの情報を簡単に入手できますが、正しい情報ばかりではないので、情報を安全に活用するための知識や技術を身に付けることが大切だと思います。これからは、今日学んだことを生かし、情報入手と発信の際に責任ある行動をとっていきたいと思います。」と、講師の方にお礼の言葉を述べました。

「いじめゼロ集会」

ご存じのとおり、「いじめ」は、「どの生徒にも、あらゆる場面で起こりうる行為」ですが、決して許されるものではありません。被害側が被る精神的な恐怖や苦痛は、日常生活さえも困難にするほどの、想像を絶する大きなものだと思います。当然、加害側にもペナルティーが科せられることとなります。つまり、「いじめは誰も得をしない愚かな行為」と言えると思います。

そのような、マイナス要素しかないいじめを本校から無くす取組の一つとして、9月16日に「いじめゼロ集会」をTV放送にて行いました。NHK Eテレの番組「いじめをノックアウト」を視聴しましたが、「あいつ変じゃね！」という、日常生活の中でよく耳にする言葉について考える内容でした。

生徒たちは真剣に視聴しており、自分の中でこの問題について考えているように感じました。

最後は、生活安全委員長の野澤さんが、「自分を基準にすると、必ず相手に自分と違う点があると思うが、それを『変』ととらえるのではなく、『個性』として受け止めていくことで、皆が楽しく生活できるようになる。一人一人が相手の気持ちを考えて行動することで、悲しい思いをする人は必ず減るはず。一人一人の力で横川中から悲しい思いをする人をなくしていきましょう。」と立派にしめくくってくれました。

野澤さんが話してくれたように、いじめゼロには一人一人が

【相手の気持ちを考える＝思いやり・優しさ】が何よりも大切だと思います。「十人十色」という言葉がありますが、10人いれば10人ともそれぞれ色（容姿や考え方、環境など）が違うという意味です。これを個性と呼ぶのでしょうか。**他人の個性を尊重しながら、自分にしかない個性をしっかりと磨くことに力を注いでほしいと思います。**



合唱コンクールについてのお知らせ

9月中旬頃からでしょうか。校内に歌声が響きわたる毎日です。初めの頃は、「形になるかな・・・」と、不安を抱くような歌声でした。歌詞が曖昧なために自信をもって発声できない。そんな状態から今年の合唱コンクールに向けた練習がスタートしました。今では、音楽の授業や放課後の学級練習では、中学生の若いエネルギーが学校を包んでいるような感覚になるほど、エネルギーを持った歌声が飛び交っています。合唱コンクール本番がとても楽しみです。

例年は市の文化会館に場所を移して実施している文化祭（合唱コンクール含む）ですが、今年ばかりは例年どおりというわけにはいかず、学校の体育館で実施することになりました。密集を少しでも減らすために、保護者の皆様の観覧もご遠慮願う形での文化祭となり、大変申し訳なく思っておりますが、ご容赦ください。

その代わりに、**業者に依頼し、合唱コンクールや吹奏楽部・合唱部の発表、生徒会による劇、有志による発表などを録画していただくこと**にしました。併せて当日は、**横川中の保護者のみが閲覧可能となるYouTubeでの生配信**もしていただくことにしています。

さすがに、生の姿や声の迫力から受ける臨場感は落ちると思いますが、お子様が頑張っている姿や合唱をご覧いただき、家庭で話題にさせていただけたら嬉しく思います。

過日、3年生全体でリハーサルを行いました。やはり、生で聴く迫力には圧倒されるものがありました。文化祭当日は、無観客で教室のTVで他の学級の発表を視聴する予定で考えていましたが、リハーサルの様子を見ると、1学年のみであれば全クラスが体育館に入ってもそれほどの密集にはならないことから、**換気とマスク着用、ソーシャルディスタンスの対策**をとりながら、**各学年ごとに合唱コンクールを行うことにしたい**と思います。



3年生リハーサルの様子